

Young Officials' Camp2014 参加報告書

札幌地区 高橋伸禎

この度、8月8日から10日までの3日間、全国 YOC 講習会を受講させていただきました、札幌地区の高橋です。私は今回の講習会で、プレーをしっかりと見極めて、スペースを捉えて思い切りのいい判定することと講師や受講生の方々とたくさんコミュニケーションを取ることを目標にして臨みました。

初日から最終日まで天候が雨に見舞われ、湿度も高い中での講習会でした。初日に実施した実技では「よりよいプレゼンテーションの基本・体幹をつくるトレーニング、アジリティトレーニング」、審判員として見せ方を良くするための姿勢づくりや走り方を、ご教授いただきました。3時間のトレーニングを行い、心身ともに大変鍛えることが出来た実技でした。1日目の講義では、平野 彰夫氏によります、「ルールについて」、DVD での講義を受講しました。印象として残っているのは、シリンダーについての考え方で、私自身、オフェンスとディフェンスどちらがシリンダーをおかして影響が出ているのか判定できないことが多くあるので、プレーの見始めからしっかり確認することが大切であると感じました。

2日目からの実技では、2Q ずつの試合で、4つの班に分かれて、それぞれ4人の講師がいる中での講習会でした。私たちの班には、東 祐二氏・山崎 人志氏・関口 知之氏・小坂井 郁子氏の4名の講師がつき、2日間ご教授いただきました。

第1試合

伊奈学園ー都立足立 主審：三浦 直之（東京） 副審：高橋 伸禎

初日のトレーニングが活かされたゲーム展開で、大変トランジションの多い両チームでした。相手のスペースであるのに、リードとトレイルから取り上げてしまったことから、講評では東 祐二氏に、相手審判のしている位置を確認して判定することを意識したほうが良いとアドバイスをいただきました。

第2試合

伊奈学園ー小山台 主審：京極 幸村（秋田） 副審：高橋 伸禎

カッティングが多いチームであり、スペースの捉え方やプレーの始まりを見極めるのが難しかったのですが、私自身にとって、とても勉強させていただいた試合でした。講評では関口 知之氏に、カッティングの多いチームに対応したスペースの捉え方や判定を止まっで行うようにとアドバイスをいただきました。

2日目の夜には、平原 勇次氏と橋本 信雄氏による講義がありました。平原氏の講義では、DVD でプレーを確認し、起きた現象に対して、リードレフリー・トレイルレフリーがどの位置で現象を捉えたら、いい判定に繋がったかを考え、とても勉強になりました。橋

本氏の講義では、FIBA の仕組みや日本に対しての世界の対応についてご教授いただきました。

最終日の実技では、2 パーソンと 3 パーソンで試合を吹かせていただきました。

第 1 試合

都立駒場ー越谷北 主審：原田 香菜子（和歌山） 副審：高橋 伸禎

取り上げたものの中で、いくつか吹かなくても影響がなくプレー出来たものがあり、判定基準を示すことが出来なかった試合でした。講評では、山崎 人志氏より、トレイルで見ている位置が遠く、2 人の距離が遠くなってしまっていたとアドバイスをいただきました。

第 2 試合

柏井ー鴻巣 主審：横山 嵩斗（千葉） 第 1 副審：上田 遼馬（富山）

私自身、講習会の最終試合で第 2 副審として吹かせていただきました。出だしはメカニックがばらばらになっていましたが、時間が経過するごとに慣れていき、インタヴァルでコミュニケーションを取りながらやりきることが出来ました。3 パーソンのマニュアルに目を通し、機会があれば積極的に取り組んでいきたいと感じました。

この 3 日間で審判員としての準備から含め、たくさんのことを学ぶことが出来ました。私自身、良かった部分は今後も継続して取り組み、いただいたアドバイスを修正してもっと周りの方々から信頼をおかれる審判員になっていきたいです。また、全国の方々たくさんコミュニケーションがとれて良かったです。これからも出会った方々との繋がりを大切にして、取り組んでいきたいと思えます。

総務グループの皆さまをはじめ、日本バスケットボール協会の皆さま、講師の皆さま、埼玉県バスケットボール協会の皆さま、本当にありがとうございました。

今回、このような機会を与えてくださった、北海道バスケットボール協会の皆さま、札幌地区バスケットボール協会の皆さま、本当にありがとうございました。